

●路面電車活用に向けた今後の進め方について

札幌市では、路面電車の活用についての基本計画の策定に向けた検討項目や進め方等の枠組みを「基本計画検討フレーム」としてまとめました。

これは、昨年9月に「さっぽろを元気にする路面電車検討会議」から受けた提言を基に、市の考え方を整理したものです。

今後、既存線沿線の活性化に向けた検討を進めるとともに、まちづくりと一体となった延伸ルートやその整備内容、費用対効果等についても検討し、その結果に基づいて事業実現の可能性や実施内容等を検証し、事業化の是非を判断するために必要な基本計画の案を平成21年度までにまとめる予定です。

なお、車両の老朽化対策として導入の検討をしてきた「低床式路面電車」の走行試験を、ことしの11月下旬から実施予定です。試験後は、冬季運行の安全性や信頼性に関するデータなどを基に、札幌に適した低床電車の検討を行います。

1 基本計画検討フレームについて

(1) 「基本計画検討フレーム」の骨子

○ 路面電車の活用方針

路面電車を「まちや市民を元気にする道具」として活用します。

○ 路面電車の特性と活用の視点

「人や環境へのやさしさ」「移動の手軽さ」「定時性の高さ」「安心感」「存在感」などといった路面電車の特性を生かし、「高齢者等の外出機会の拡大」「集客交流の促進」「回遊性向上による都心の活性化」「沿線地域の活性化」への貢献を目指します。

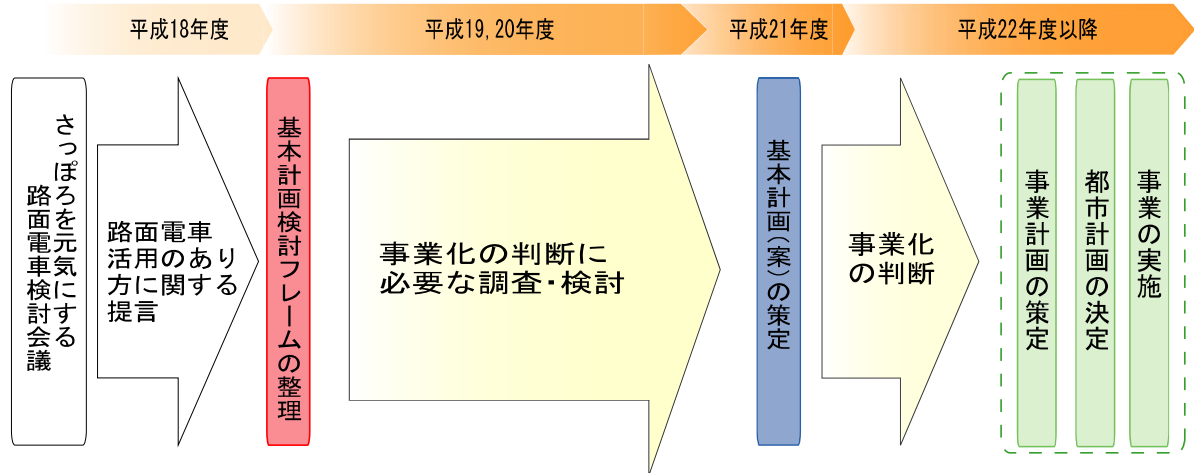
○ 今後の検討事項

「路面電車事業の収支改善と沿線の活性化」「都心の活性化に向けた路面電車活用のあり方」「路面電車の魅力向上」「交通課題等への対応」「路面電車活用の効果」「事業経営のあり方」などの検討に取り組みます。

○ 検討の進め方

「広報さっぽろ」やホームページ等により、検討の進ちよく状況などについて市民等と情報を共有するとともに、フォーラムやワークショップ、出前講座等を実施し、市民の意向把握に努め、その結果を検討に反映させながら、基本計画の案をまとめていきます。

(2) 計画策定スケジュール



(3) 基本計画検討フレームの配布資料について

① 規格・作製部数

A4判 (カラー・全24ページ)・2,000部

② 配布開始日

平成19年7月11日(水)

③ 配布場所

交通企画課(市本庁舎5階)、市政刊行物コーナー(市本庁舎2階)、各区役所総務企画課、各区民センター ほか

※ 総合交通計画部ホームページ (<http://www.city.sapporo.jp/sogokotsu/index/>) から
のダウンロードもできます。

2 低床式路面電車の走行試験について

(1) 概要

老朽化した路面電車を更新するに当たり、多雪寒冷地に適する低床車両の導入を検討していたところ、バッテリー駆動式低床電車の研究開発を進めている鉄道車両の研究機関などから、実路線を使った走行試験の実施について申し出がありました。

札幌市としては、冬の札幌で実際に低床電車の試運転を行うことで、将来導入する車両の検討に必要な冬季運行の安全性や信頼性などに関するデータを収集することができることから、研究機関などと共同で走行試験を行うことにしました。

なお、試験車両は測定器などを搭載した試験専用車両で、営業運転は行いません。

(2) 実施時期

平成19年11月下旬～平成20年3月(予定)

(3) 試験車両の特徴

- 地面から客室の床までの高さを三十数センチメートルとし、バリアフリーに対応した構造となっています。
- 高性能バッテリーを搭載し、架線とバッテリーのハイブリッド走行を行うことによりエネルギーの有効利用を図ることができるなど、より一層地球環境に優しい構造となっています。

(4) 使用予定車両

① 財団法人鉄道総合技術研究所の試験車両

- ・車両長 12.9メートル（定員44人）
- ・構造 単車体構造
- ・バッテリー リチウムイオン電池

② 川崎重工業株式会社の試験車両

- ・車両長 15.0メートル（定員62人）
- ・構造 3車体連接構造
- ・バッテリー ニッケル水素電池



(財)鉄道総合技術研究所の試験車両(イメージ図)



川崎重工業(株)の試験車両 (イメージ図)

問い合わせ先

「基本計画検討フレーム」について

市民まちづくり局総合交通計画部交通企画課

電話 211-2492

「低床式路面電車の走行試験」について

交通局高速電車部車両課

電話 896-2774